

美山町での山村留学が10周年を迎えました

南丹市美山山村留学の歴史を振り返る

平成9年に旧美山町で始まった山村留学事業が今年で10周年を迎えました。この10周年を振り返り、山村留学事業の歴史と歩みを紹介します。



▲10周年を記念して作られた留学生らの人形

美山での山村留学の歴史

南丹市美山町の知井地区で、山村留学事業を開始して今年で十年を迎えました。

知井地区での山村留学の始まりは、平成九年に行われた旧美山町立知井小学校の改築がきっかけでした。地域の中で「学校は地域のシンボルとなるもの。校舎新築を期に、地域が元気を取り戻し、将来の知井づくりにつながる取り組みが必要ではないか」との声があがり、地区住民らで校舎建築委員会を発足させ話し合いが行われました。過疎化が進む知井地区では少子化が深刻な問題となってい



▲都会では味わえない豊かな自然の中で学びます



▲5人の第1期生で山村留学は始まりました

ました。特に小学校では、別学年の児童が同じ教室で学ぶ複式学級化への移行が迫られていました。

そのため、地域のシンボルとなる小学校に空き教室を作らないように教育を活性化すること、また、都市との交流の促進を目指して、知井小学校の新校舎完成と同時に山村留学が始まりました。

山村留学センターでの生活

当初は、校区の一般家庭に寄宿する「里親方式」で六人の児童を迎えて試行した山村留学は、二年目からは学校から約二キロ離れた空き家に全員が寄宿する

山村留学とは：都市部の小学生や中学生が長期間にわたって親元を離れ、自然豊かな農山村の留学センターや里親家庭で生活しながら現地の学校で学ぶことです。



▲近くにあるかやぶきの里で集合写真（第8期生）

「センター方式」となり、新潟県、香川県などから児童を迎えました。そして平成十二年三月にはロジ風で木造平屋建ての現在の寄宿舎山村留学センター「四季の里」が完成しました。

留学生は小学生を対象に一年から二年の滞在で、平成十年成五人、平成十一年度五人、平成十二年度八人、平成十三年度九人、平成十四年度九人、平成十五年度から平成十八年度まで